



幸手市立西中学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標

自己実現を目指し、心豊かな人

- 1 自ら学ぶ生徒
- 2 思いやりのある生徒
- 3 心身を鍛える生徒

学校研修課題

自ら学ぶ生徒の育成

～生徒がひとり残らず50分学び続ける授業づくり～

本年度の重点

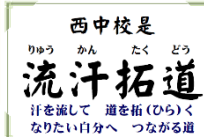
- 1 学びあいによる授業改善
- 2 単元テスト・再チャレンジテストの実施による学習内容の定着、学習意欲の向上

目標達成の指針

- 1 全国学力・学習状況調査
「平均正答率」
- 2 埼玉県学力・学習状況調査
「平均正答率」「学力の伸びの平均」
- 3 各種学力テスト
「平均正答率」
- 4 学校評価
「わかりやすい授業」
「家庭学習の時間」

なりたい自分になるために努力する、心豊かな生徒を育成します。

学校の共通行動



生徒指導・教育相談体制の充実

生徒との信頼関係を構築するため、全教職員が組織的に生徒と関わり、特に生徒の「よさ」を見出すことに努め、生徒の健全な成長を支援する。また、「よさ」を認めるため、校内善行賞「善泉賞」を設けて「よさ」を称賛し、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

自律心の育成

将来の社会生活を意識させるため、生徒が「スケジュール機能付き生活ノート」を活用し、日々の生活を自己管理できる能力を育成する。また、「ノーチャイムの学校」で、生徒が自ら時計を意識して行動できるように支援する。

生徒の実態把握

各種調査や学校独自の生徒アンケートで、実態把握を行い、本校の取組の課題と成果を確認した上で、改善策を考え、実践し、さらなる向上を図る。

授業外での取組



単元テスト・再チャレンジテスト実施

国、数、社、理、英については、単元終了後にテストを実施、生徒が単元ごとに学習内容の理解度が振り返られるように支援する。さらに、「わからなかったものがわかるようにする」ために単元テストとほぼ同じ内容の再チャレンジテストを行い、生徒の「わかるようになった」「点数が上がった」等の実感を増やし、生徒の学習意欲を図る。

学力テスト実施

生徒が学年内で自分のおおよその学力の位置等を把握したり、これまでに学習した内容の定着を確認したりするための取組とする。評価、評定の材料とする。

教育支援センター、さわやか相談室との連携

学習や生活等に困り感のある生徒を支援するために、適応指導教室、さわやか相談室との連携を強化する。また、校内教育支援センターを設置し、困り感のある生徒が個別に学習したり、心を落ち着かせたりできる環境を構築する。

確かな授業実践



「学びあい」の授業づくり

4人グループでの「学びあい」を積極的に実践し、教師が教え込む授業から、生徒が学ぶ授業への転換を推進する。4人グループ内では、生徒同士の聴き合う関係や他の生徒の学習が見える環境を重視し、お互いを支援しあえる人間関係が構築できるようにする。

教師は課題を創意工夫した上で授業を実践し、生徒同士の意見や考えをつないだり、切り返したりする等のファシリテーター役を意識する。

「学びの三か条」共有

1わからないときは、周りの友達に聞くべし、2聞かれたら、相手がわかるまで教えるべし、3聞かれなかったときは、余計なお節介は慎むべしの三か条を全校で共有する。

学びあう教師

月1回の学年授業研究会、年3回の全校授業研究会を実施し、教師が生徒の姿から学ぶ研修を重視する。

家庭・学校間連携



メディア利用の削減、家庭学習の増加

スマートフォン等のメディアの長時間利用を削減するため定期的な調査を行い、生徒に課題意識を持たせ、改善を図る。スマートフォンの長時間利用が家庭学習の時間の不足も大きな影響を与えていることを認識させ、改善を図る。

オンライン授業、オンライン相談の充実

学習や生活等に困り感のある生徒が、多様な学び方や相談ができる環境をさらに充実する。保護者の相談がオンラインで可能な環境を整え、相互理解、連携を充実する。

校区間連携の充実

西中校区小中学校教職員合同研修会を実施し、校区内小中学校の教職員が相互理解を深め、学習内容の系統性や共通して指導できる項目を確認等を行い、校区間の相互理解や連携を充実する。また、西中校区学校運営協議会も引き続き開催し、地域も含めて、校区間の相互理解、連携を充実する。